

自治労 労働相談

TEL 0120-768-068

(受付時間: 10:00~17:00)
(月曜日~金曜日 祝祭日を除く)

E-mail soudan@j-kanagawa.jp

専門スタッフが対応します

自治労 神奈川
JICHIRO
KANAGAWA発行/自治労神奈川県本部
住所/横浜市南区高根町1-3
地域労働文化会館3階
045-251-9711発行人/蓼沼 宏幸
編集人/中野 雅臣
1部/20円

(組合員の購読料は組合費の中に含む)

障がい当事者の交流深め
親睦会でさまざまな課題共有

障がい者が必要とする合理的配慮が確保され、誰もがともに暮らし働くことのできる地域社会の実現に向け、自治労には当事者組織である障害労働者全国連絡会(障労連)が組織されている。

県本部障労連は、10月25日都内で、組合員親睦会を開き、6組合18人が参加した。施設見学や交流を通じてさまざまな課題を共有する機会となった。

株式会社オリィ研究所が運営する分身ロボットカフェを訪問。常設実験カフェは、病気や障がい、介護や子育てなどさまざまな理由で外出が難しい移動困難者が、分身ロボット「OriHime」をパイロットとして遠隔操作し、サービスを提供している。国外からの来客者も多く、都内に1店舗、デンマークに1店舗しかないため、人気のカフェとなっている。

卓上の遠隔操作ロボットから接客を受け注文は口頭で行い、料理は給仕用ロボットが運ぶ。食事中には、卓上ロボットが、店内の案内や開発秘話を紹介。遠隔操作するパイロットとの会話もできる。遠方の地域から操作するパイロットも多く在籍しており、複数人でも円滑に会話を楽しむことができた。



操縦体験コーナーでは、タブレットと接続されたロボットを実際に操作。タブレットの画面には「拍手」「なんでやねん」等のリアクションコマンドが表示されるなど、誰でも簡単に操作できる仕様となっている。

カフェ内にはバーカウンターもあり、パイロットがビールサーバーを操作しグラスにビールを注ぎ、バリスタ研修を受けたパイロットは専用ロボットでコーヒーを淹れる。

テクノロジーの進化により、障がい者支援の分野

においては、かつては不可能とされていたことが、実現可能になりつつある。それぞれの障がいの特性や課題に合わせて、多様なアプローチを可能にする柔軟で力強いツールである一方で、決して万能ではない。

障労連では、賃金や昇任・昇格、人事異動や労働用具をはじめ、職場におけるコミュニケーション等といった多様な問題について、「仕事に人を合わせるのではなく障がい者に仕事を合わせる」という立場から、それぞれの障害の状況、職場実態に見合った改善を求め活動を行っている。



...

参加者の声

...



◎ 安藤 美紀子さん(自治労県職労)

大きなロボットが出てくると想像していたが、思っていたよりも小さく可愛らしかった。食事を摂りながら会話を楽しむことができた。自宅から遠隔操作といった働き方が広がれば、働くことを断念していた方も働けるようになり、そのような人が増えればいいと感じた。

◎ 藤木 啓佐さん(自治労横浜)

障がいのある方も生き生きと働いており、働いてみたいと思える環境だった。カフェがもっと広まって、店舗が国内に増えてほしい。

◎ 伊藤 秀敏さん(自治労横浜)

おしゃれで敷居が高く、自分1人では利用できないと感じていたため、今回の親睦会に参加し、貴重な体験することができてよかった。



男女平等は誰もが取り組むべき課題

グローバル未来会議で 課題深める

連合神奈川女性委員会は、10月30日横浜で、グローバル未来会議を開き、民間を含む県内労働組合から83人（うち男性30人）が参加した。

これまで女性委員会では、連合の活動や各組合に共通する課題の問題提起と意見交換を行い、自分の組織や職場を見直し・改善するきっかけづくりを目的に、女性会議を開催してきた。男女平等参画社会の実現には女性だけでなく男性の理解も重要であり、性別に関係なく誰もが取り組むべき課題であることを改めて考える場とするため、グローバル未来会議と名称を変え実施した。

集会は、『ジェンダー平等・多様性の推進をすべての運動の中心に』と題し、連合の芳野友子会長が講演。自身の出身である、ミシンメーカーJUKIで



の労働組合役員の経験や活動の報告では「当時は女性の声を受け入れる体制が職場や組合に整っておらず大変苦労したが、法施行に先駆けて1990年に育児を導入した」と報告。さらに、連合における取り組みを提起し「労働組合における男女平等参画と職場・社会におけるジェンダー平等の推進を運動目標に、連合はジェンダー平等推進計画を推進している。組合活動への女性参画をはじめ女性役員の選出など、さまざまな目標を掲げながら積極的に推進していく」と述べた。

グループディスカッションでは、『若手役員や女性役員を増やす取り組みについて』をテーマにディスカッションが行われ、職種や地域を超えた参加者との交流を深めた。

まとめで、芳野会長は「現在は昔より働きやすくなっていて、組合に対するメリット感は薄いかもしれない。それは先輩達のこれまでの組合活動のおかげであり、今後も労働環境の改善などを使用者と交渉できるのは労働組合だからできることを、若年層へ伝えてほしい」と訴えた。



狭山事件 再審請求に向け署名21万筆 市民集会で真実の解明と差別根絶訴え

1963年に狭山市で女子高校生が殺害された「狭山事件」で、冤罪を訴え続けた石川一雄さん（今年3月に86歳で死去）の再審の実現を求める市民集会在10月31日、東京で開かれ全国から1200人が参加した。

妻である石川早智子さんが、新たな請求人となり第4次再審請求の闘いが始まった。弁護団・検察・裁判所はいずれも第3次と同じ体制で、証人尋問と再審開始への期待が高まる一方、

検察側は審理の先延ばしを主張し、批判が集まっている。

壇上には石川さんの遺影が置かれ、第4次再審請求審を引き継いだ早智子さんは「一雄は生涯をかけて無実を訴え、差別と闘い続けたが、その願いは叶わなかった。再審請求のため新たな署名活動が始まり、これまでに21万筆が集まっている。私も78歳。生きている間に、待っている一雄に再審無罪を報告したい」と語り、再審法改正への協



力を訴えた。さらに「全国から寄せられる励ましの手紙や『一人じゃない』の言葉に支えられながら、真実の解明と差別の根絶をめざし闘いを続ける」と決意を新たに示した。

集会后、参加者たちは日比谷公園方面へデモ行進し、「今こそ再審開始を」などと声を上げた。

関東甲野球大会

藤沢あと一歩及ばず 決勝で太田に敗れ準優勝

自治労関東甲スポーツ大会（野球大会）が10月15日～16日埼玉県で開かれ、神奈川からは県大会を制した藤沢市職労が参加した。第1試合は、大田区職労（東京）と対戦。6回表まで互いに点を取り合い、7対7の同点で迎えた6回裏、藤沢は一挙に打線が爆発し、6点を奪い7対13で快勝。続く第2試合は、取手市職労（茨城）と対戦。



8回裏まで、0ゲームの投手戦。最終回表、藤沢はなんとか1点をもぎとり、1対0で勝利。決勝へと駒を進めた。

決勝戦は、太田市職労（群馬）と対戦。強豪太田に8回裏までコンスタントに点を奪われ、0対5の苦しい戦いが続く。最終回、何とか執念で1点を取り返したが、反撃及ばずゲームセット。

熱戦の関東甲大会において、見事に準優勝となった藤沢市職労。来年度は、全国大会へ続く関東大会。全国大会出場に向け、期待感が生まれた大会となった。

新役員紹介

県本部大会以降、新たに専従として奮闘する役員を紹介します。
自治労・県本部運動の先頭に立って頑張ります。
みなさんご協力をお願いします。

小野 文彰

副委員長（茅ヶ崎市職労）



- ① 議会事務局の議事調査担当で、主に市議会の各種会議の運営をしていました。
- ② 行雲流水・なんとなかな
- ③ 片付け・遠出・野球観戦・カフェ巡り
- ④ 好きなものをちょっとずつ食べたい
- ⑤ 自宅でゆっくり

質問内容

- ① 専従になる前はどんな仕事をしていましたか？
- ② 自分の性格は？
- ③ 趣味は何ですか？
- ④ 人生最後の晩餐に食べたいものは何ですか？
- ⑤ 明日、世界が滅亡するとしたら何をしますか？

羽太 鎮雄

政治政策局長（平塚市職労）



- ① 社会福祉協議会で「成年後見利用支援センター」を担当し、相談・支援・人材育成・普及啓発等の業務を行っていました。
- ② 人を笑わせることが大好きなお調子者
- ③ 音楽・映画鑑賞、車・バイク、カメラ・オーディオ
好きなものにはとことんハマってしまうオタク気質あり。
- ④ ラーメンかハンバーグ
- ⑤ ここに書けない（笑）ウソです。大好きなヘヴィメタルを聴きまくる。

片山 淳二

労働局長（伊勢原市職）



- ① 農業委員会事務局で、農地の貸借の手続きを担当していました。
- ② ネガティブとポジティブのスイッチバック走行
- ③ ローストビーフ作り
- ④ ある場所で食べたローストビーフを超えるローストビーフ
- ⑤ ある場所で食べたローストビーフを超えるローストビーフ作り

鈴木 悠太

組織局長（相模原市職）



- ① 下水道整備課で新設の污水管を作るために、設計と現場監督をしていました。
- ② フットワークが軽く、思い立ったらすぐ行動します！
- ③ 体を動かすことが好きなので、テニス・サッカーをよくやります。
- ④ 高級なお肉をいっぱい食べたいです
- ⑤ 朝早く起きて行動したいけど、二度寝

『平和の思い』 走りつなぐ

反核・平和の火リレーは「語り継ごう・走りつづけようヒロシマ・ナガサキ・オキナワの心を」をスローガンに、1982年に広島で始まり、神奈川では今年で36回を迎えた。「平和の灯」を掲げたトーチを手から手へ、平和への思いとともに走りつないだ。



県内の各自治体や基地を巡り、米軍基地の縮小・撤去を訴えながら、核兵器の禁止、原子力空母の即時撤退、脱原発政策への転換を求める要請行動を行った。

『自治労神奈川』新年号 原稿・写真募集中!

原稿・漫画など

創作・書初め・漫画
なんでも結構です。
お気軽にご応募ください。

写真

紙面を飾るのにふさわしい
写真を募集します。
題材は自由。メールに添
付してご応募ください。

※応募原稿は、未発表のものに限ります。

応募対象 組合員とその家族 ※賞品あり

応募方法 組合名・名前をご記入のうえ、**県本部教宣担当**までご応募ください。ご家族の応募については、その旨を記載してください。

締め切り ▶**12月10日(水)** 県本部**必着**

問い合わせ 県本部教宣担当 浪川
応募先 ☎ 045-251-9711
✉ isamu.namikawa@j-kanagawa.jp

連載 自治研センターレポート

湘南三浦ブロック給食部会学習会

「災害時、私たちができる衛生管理 ～直営だからこそその役割とは」

神奈川県地方自治研究センター研究員 岡田 実

■9月6日に藤沢ミナパークで標記の学習会が開かれ、自治研センターからは、野坂事務局長と私の2名が参加し、約60名の組合員の皆さんと災害が発生した際の給食調理員の行動・役割、問題点について話しあってきました。■学校給食無償化が政策課題となり安全な給食が注目を集めています。事務局長からは、「学校給食の役割をみんなで議論し、私たちの言葉で伝えること」、「学校内外の子どもたちの食への関心を広げること」、「『学校給食のことは私たちに任せて』と言えるように学び合うこと」、「学校給食への関心を高めることが直営体制を鍛えることにつながる」となどの問題意識が話されました。■災害が発生した際に、自治体職員は、災害対策基本法と地方公務員法により職務命令に基づいて災害対応業務にあたることになりますが、大震災などの激甚災害であれば、まさに総動員体制で取り組まなければいけません。その根拠となるのが、各自治体で定められている「地域防災計画」や「業務継続計画」です。あらかじめ、湘三ブロック（横須賀、葉山、藤沢、茅ヶ崎、平塚、寒川、南足柄）の計画策定状況を調べてみたところ、学校給食に関する記載内容はバラバラで、また、給食施設の点検・復旧、

給食調理員の行動、避難所炊出しの可否などについて、災害発生時にどう行動するのか具体的に記述されていないことがわかりました。災害が発生した際に、給食調理員が自治体職員としてどのように行動するのか。学校給食施設がどのように利用されるのかといったことについてあらかじめ話し合い、地域防災計画にしっかり書き込んでおく必要があります。■学習会の後半では、これら課題提起をふまえて、グループに分かれ自治体ごと、学校ごとにどのような防災対策が準備されているのか等について意見交換がなされ、今後に向けて各単組、各人がどのように行動していくべきかが話し合われました。■湘三ブロックの取り組みは、現場発の自治研活動の先駆事例です。一つには、給食調理の現場の職員自らが災害時にどのように行動したらよいか問題提起していること。もう一つは、現場で気づいた問題点をブロックの他の自治体の組合員と情報交換しながら防災計画づくりにつなげていこうとしていることです。さらに、この取り組みを基礎として、各組合において、教育委員会や防災危機管理担当部局などと意見交換し各自治体の政策水準の向上に寄与する活動に発展させることができれば、これこそ、現場で働く者の視点、住民の視点、地域の視点に立った自治研活動となります。自治体現場の課題はよりよい自治体政策づくりの出発点です。現場の課題に気づき行動する組合員に期待するとともに、自治研センターも一緒に考えていきます。